

ペルテス病の治療成績 4 歳以下

座長：金 郁 喆

若年発症のペルテス病は予後良好との印象をもっておられる先生が多い。今回、山本会長が主題として取り上げられた理由は「4 歳以下発症のペルテス病の治療成績が本当に良好なのか」という疑問からだったと推察する。この主題では若年発症のペルテス病の治療の実態を報告することである。演者の先生方からは決して予後良好とはいえないという趣旨のご発表が多かった。確かに全年齢層を含めた治療成績の平均から考えると成績は良好であるが、予後不良の症例も認められており、決して治療が必要でないとはいえない年齢層であることを強調したい。低年齢発症では Catterall group 4 の症例も多く骨端核が小さいため圧潰を免れる骨端核は少ない。このことは Herring の lateral pillar 分類で C が多いこととなり、予後不良な症例が出現することは否めない。治療上は若年発症の症例では保存療法に対する理解が十分得られず、そうかといって観血手術を行うにはしのびないのが現状と考えられる。ペルテス病はある時期が過ぎると全く疼痛がなく、治療の必要性を親も子も十分理解できないことも問題点である。今回発表された先生方の症例は治療法が異なっているが、おおむね治療が必要で決して予後良好との結論を導き出したとはいえない。どのような症例が予後不良となるかについては今後詳しい検討が必要である。

4 歳以下発症ペルテス病の治療成績の検討	……………名古屋市立大学整形外科	和田郁雄ほか
4 歳未満発症ペルテス病の治療成績	……………東京都立清瀬小児病院整形外科	下村哲史ほか
若年発症のペルテス氏病の予後(4 歳未満)		
……………	……………長崎県立こども医療福祉センター整形外科	二宮義和ほか
4 歳未満で発症したペルテス病患者の予後についての検討		
……………	……………滋賀県立小児保健医療センター整形外科	中村千恵子ほか